

[連載] 第31回

清々しき人々

月尾嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

かわ なべ きょう さい 河鍋 暁斎

北斎に匹敵する天才絵師

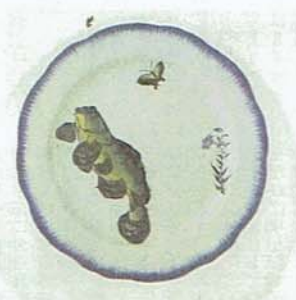


図1 「北斎漫画」からの模写



図2 「暁斎楽画」からの模写



図3 「運獅子」



図4 「閻魔と地獄太夫」(マナシロラッシュン)

今年江戸時代後期の浮世絵師・葛飾北斎の没後一七〇年であり、数多くの記念行事が開催されています。ある程度、名前が記録されている江戸時代の浮世絵師だけでも約一、二〇〇名にもなるので、その何倍もの絵師が存在していたと推定されますが、その頂点が北斎でした。江戸時代の前期では菱川師宣や鳥居清長、中期では喜多川歌麿や東洲斎写楽、後期では歌川広重や歌川国芳などの人気絵師が著名ですが、北斎は抜群の存在でした。

幕末になって外国との交流が徐々に開始されると、様々な日本文化が海外に周知されるようになりますが、ヨーロッパに多大の影響をもたらしたのが浮世絵でした。ゴッホは自身で取集めた数多くの浮世絵を油絵で模写していますし、マネやドガなど印象派の画家たちの構図にも影響しています。北斎が絵画の手法として描写した膨大な素材

集められた「北斎漫画」はフランスの食器の挿絵として模写されているほどです(図1)。

北斎ほどではないものの西欧で評価されたもう一人の絵師がいます。河鍋暁斎です。その名前は来日したヨーロッパの人々の記録に数多く登場します。それを描写しようとする画家が存在する。それが北斎であり暁斎であった。イギリスの作家A・モリスは「狩野派の門弟で名声が日本国外まで浸透していたのは河鍋暁斎であった」という具合です。その証明となるフランスの絵画も存在します(図2)。

海外からだけではなく、暁斎は国内でも評価されてきました。数多くの美術評論のある竹内梅松は「明治初年の東京画壇は多士済々であるが、骨法用筆や随筆伝彩では暁斎以上の存在はない」と評価し、イギリスから来日した東京大学で建築を教育していたJ・コンドルは暁斎の弟子であったこと、引いても、暁斎が死去したとき「日本が一人の偉大な画家、まぎれもなく現代最高の逸材を喪失したことを意味する」と追悼しています。

かつてはこのような評価されながら、現代では北斎に比較して過小な紹介がなされています。暁斎は天保二年(一八三二)に下総国古河石町(茨城県古河市)に河鍋記右衛門と豊の次男として誕生し、幼名は周三郎でした。この父親は米穀商店亀屋の次男でしたが、古河藩士河鍋喜太夫信正の養子として武士となり、暁斎の誕生した翌年に一家で江戸に移住、定火消同心甲斐氏の後継として甲斐記右衛門を名乗ります。

浮世絵師の双璧・北斎と暁斎

河鍋暁斎(1831-89)

描を集めた「北斎漫画」はフランスの食器の挿絵として模写されているほどです(図1)。

河鍋暁斎(1831-89)

河鍋暁斎(1831-89)



河鍋暁斎(1831-89)

河鍋暁斎(1831-89)

河鍋暁斎(1831-89)

河鍋暁斎(1831-89)

河鍋暁斎(1831-89)

たとき、駿河台狩野家が代行することになり、洞部をはじめとする門弟が勇躍して完成させますが、その出来を本家が検分したときに感心されたという逸話もありました。

暁斎は才能だけでなく絵画への異常な情熱も発揮しています。一八四六年正月に江戸に「丙午の大火」が発生して本郷から佃島まで消失しました。このとき暁斎の生活する火消長屋も延焼し、家族は家財道具の搬出に奮闘していましたが、暁斎は手伝いもせず、屋敷の消失する様子を生写していたそうです。北斎にも同様の逸話があり、「画狂老人」と名乗った北斎と、師匠に「画鬼」と名付けられた暁斎には共通する芸術家魂が存在していました。

明治政府を風刺して逮捕

一八五〇年になり、師匠洞部の斃命により同門の館林藩秋元家の絵師坪山洞山の養子となり、坪山洞部を名乗りますが、昼間より飲酒をし、外泊もするようになる生活であったため、翌年の五年に洞部の逝去を機会に離縁され、しばらく放浪生活をするようになり、その期間には絵馬や羽子板絵を描写して生活しますが、その一方で、土佐派、四条派、円山派などの日本画のみならず浮世絵も模写するなど研鑽し、画力を向上させていきます。

一八五五年に関東から東海にかけて安政江戸地震が襲来します。江戸の死者だけでも一万人近くと推定される甚大な被害をもたらしますが、暁斎は地震に関係する絵を描写して世間に登場します。しかし貧乏は相変わらずで

衣服も満足に購入できず、住居も不定という状態でした。ようやく五七年になり琳派の始祖酒井抱一の弟子鈴木其一の次女の阿清と結婚して独立した絵師となり、父親の希望によって河鍋を継承することになりました。

暁斎は以前から「狂々狂斎」とも名乗っていたと記録されています。芸術には一般の人々からすれば狂気と見做されるような精神が必要とされますが、狂斎も同様に、絵画のことになれば夢中になる性格であり、それを表現した名前です。実際、幕末には「狂斎画譜」「狂斎百図」などの狂斎の名前で画集を出版しています。しかし、明治になった一八七〇年から「狂斎」を「暁斎」に変更しますが、これはある不幸な事件に由来するものです。

江戸時代から明治時代にかけて書画会という催事が頻りに開催されてきました。これは寺院や料亭などに画家、書家、歌人などが自作を出品する一種の展示会で、会場で作家が即席で作品を創作する企画もありました。詳細は不明ですが、一八七〇年一月に上野の料亭で開催された書画会に出席した暁斎は録したが即席で戯画を制作しますが、その内容が明治政府の役人を風刺する内容だとされ、官憲に逮捕され投獄されてしまうのです。

明治初期の裁判制度も整備されていない時期であり、不潔な獄舎で病気になる。一旦は療養のために静養し、健康が回復した段階で再度、入牢させられ、翌年正月に獄舎の門前で笞打ち五〇の刑罰により釈放されるという災難になりました。この結果、過剰な飲酒を反省した暁斎は名前を「狂斎」から

「晩齋」に改号し、疲労した肉体と精神を回復するために伊豆の修善寺温泉に投宿し、数日後に心身ともに回復して帰京しました。

活躍した晩年

これは災難でしたが、一方で晩齋は有名となり、作品の注文が増加し、数多くの名作を制作しています(図3)。有名な作品は一八七三年に開催されたウィーン万国博覧会の日本庭園の入口に掲示された大幡「神功皇后武内宿禰」(図4)、八〇年に四時間で完成させたという新富座の全幅一七メートル、全高四メートルの引幕、晩齋の名前を有名にした八一年の内閣勸業博覧会に出品した「枯木寒鴉図」などがあり、海外でも収集されています(図5)。

晩齋を外国で有名にしたのは工部大学校造家学科の教授としてイギリスから来日し、東京帝室博物館、鹿鳴館、三愛一号館、三井倶楽部など数多くの建物の設計をしたJ・コンドルが晩齋に入門したこと(図5)。コンドルは晩齋から「晩英」という名前を授与され、一緒に写生旅行をするほど親密で、晩齋の臨終を看取っています。そして晩齋没後の一九一一年には晩齋の伝記「河鍋晩齋・本画と画稿」を英文で出版しています。

岡倉天心とE・フエノロサは一八八七年に設立された国立の東京美術学校の日本画科の初代教授を晩齋に委嘱しようとしていたようですが、残念なことに胃瘍のために八九年に逝去しました。その最後の時期に晩齋を診察したのがドイツから医学の教授として東京大学に招聘されていたE・ベルツですが「現在の日本最大の画家である晩齋は今日ではもつまい。胃瘍にかかっているのだ」と「ベルツの日記」に記録しています。



図3 E・ベルツ (1852-1920)

多数の人々から敬愛された晩齋ですが、本人も報恩の精神のある人柄でした。歌川国芳には二年ほど師事しただけでしたが、後年になり国芳の絵画は一押しして展覧するほど生涯尊敬していましたし、わずかな期間、師事しただけの前村洞和についても、自身で描写した肖像を掛軸にし、さらに彫師に依頼して彫像を制作し、忌日には丁寧に供養していたと伝承されています。日本の伝統精神かともいえますが、晩齋の人柄を彷彿とさせます。

このように傑出した才能のあった晩齋ですが、外国での評価と比較すると、日本では一般には周知されていませんでした。それは才能のままに様々な様式の絵画を描き、歌麿の美人画、写楽の役者絵、広重の風景画というように特定の主題に傑出するのではなく、どのような分野にも傑作を描き、それが影響しているのかもしれない。さらに私見ですが、明治初期に政府を風刺して投獄された経歴が影響していたのかもしれない。

曾孫の尽力で浮上してきた 晩齋

晩齋の弟子は数多く存在しますが、とりわけ次男の河鍋晩雲(一八六〇-一九〇八)と長女の河鍋晩翠(一八六八-一九三五)が有名です。晩雲は父親の画風を継承した日本画家で、第三回内閣勸業博覧会(一八九〇)に出品した「雷神」は一等褒状を受賞しています。二二歳で晩齋と死別した晩翠は日本美術協会会員としても活躍しましたが、一九〇二年に創設された東京女子美術学校で女性として最初に邦画を教授しています。



図6 河鍋晩齋記念美術館 (埼玉県蕨市)

つぎお よしお
1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授、東京大学教授を経て東京大学名誉教授。2002、03年総務省総務審議官。これまでにコンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策などを研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら、知床半島、羊蹄山、釧路湖、白馬山、富良野、川湯温泉、瀬戸内海などを主筆し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組み。主要著書に「日本百年の転換戦略」(講談社)、「縮小文明の展望」(東京大学出版会)、「地球先生」(講談社)、「地球の救い方」(水話 遊行社)、「100年先を読む」(フロンティア研究所)、「先住民族の創生」(遊行社)、「歴史をわなかつた」(本宮は恐い)、「ビッグデータとサイバー戦争のカタクリ」(アスコム)、「日本が世界地図から消滅しないための戦略」(致知出版社)、「幸福美社会への新道」(フロンティア研究所)。「脱日本地域創生の展開」(東京大学出版会)など。最新刊は「清々しき人々」(遊行社)。



このような状況を打破しようと、晩齋の曾孫になる河鍋晩雲さんが大変な努力をされました。一九七七年には歌川市を改装して自費で河鍋晩齋記念美術館を開館(図6)、さらに一九九三年には大英博物館で、二〇一八年には京都国立博物館で肉筆画を中心とした展覧会の開催に尽力され、次第に一般にも名前が周知されるようになりました。晩齋没後一三〇年を機会に天才が外国だけではなく、日本でも認知されることを期待します。

ざぶん賞

2019(第18回)小中学生の作文募集

人が生きるためにもっとも重要な物質は空気、そして水です。その空気や水が今、私たちに様々な問題を投げかけています。小中学生の皆さんが、水について文章を書くことで、水の現在や未来、そして命の大切さを考えてほしいと思います。

応募のしかた

- 資格：小・中学生 ●文章：未発表作品 ●字数：1,200字以内
- 用紙：ざぶん賞応募用紙(ホームページからダウンロード)、A4用紙等、または電子データ。
- 形式：タテ書き 濃い鉛筆、またはボールペンで書いてください。
- 記入事項：題名/名前(ふりがな)/都道府県名/学校名/学年/性別/連絡先住所/連絡先電話番号(連絡先が学校の場合はご担当の先生のお名前)
- 送付方法：郵送の場合 〒924-0053 石川県白山市水澄町429番1 ざぶん賞実行委員会事務局まで 電子メールの場合 info@zabun.jp
- 締切：2019年9月9日(月)消印有効

全員に「ざぶん大使認定証」をお贈りします。文章選考委員長は作家の安部龍太郎氏です。入選作品は、画家、イラストレーター、工芸作家がアート作品に仕上げ、贈呈します。選考結果は2019年10月末に発表。全国表彰式を2019年12月に金沢市で、地区表彰式を翌年1月以降に各地区で開催予定です。

●文章作成や応募の際に発生する諸経費は負担しません。●応募書類は返却しません。●応募書類の不慮の破損や紛失の責任は負いません。●入選者以外への選考結果の告知はいたしません。●入選作品の出版権、および著作権は主催者に属します。●入選作品をアート作品化するにあたりタイトルや文章に変更を加えることがあります。●募集内容や選考要項など一部変更することがあります。主催：ざぶん賞実行委員会(委員長 月尾嘉男) 問い合わせ先：事務局 電話 076-287-6782



<http://www.zabun.jp/>